

エナ魂も今年で5年目、今年は梅雨の合間の晴れの日の開催となりました。

久々の週末のお天気でしたので、選手によっては岩場に想いを馳せていたのではないのでしょうか。

今年は「オープン」「マスター」「ミドル」「シニア」「エントリー」の全5クラスに125名の選手が参加してくれました。今年よりマスタークラスを新設したことにより、より自分にあったクラスを選択できるようになったのではないのでしょうか。それでも1番人気のクラスはミドルクラスで49名の選手がミドルクラスでの出場でした。

予選は1階・2階合わせて8エリアに4課題ずつ計32課題を用意した中から、クラスによって振り分けられた16課題にトライし、完登数・ボーナス数で順位を競います。



<予選風景>

エントリークラスは予選課題番号17番～32番、この中の25番～32番はほぼエントリークラスのためだけに用意された比較的やさしい課題で大半の課題がほぼ全員が完登しましたが、31番のみがうす被りの凹角でスローパーをうまく処理しなければならぬ課題で半数が完登出来ませんでした。決勝へは17番～24番の上位クラスとの共通課題をいかに多く登れるかが勝負で、最終的に14完登15ボーナスの鈴木勇太郎選手から10完登13ボーナスの牛込恭子選手までの6名が決勝に進出しました。

エントリークラス決勝は1階ウェイブ壁～バレル壁に設定された4課題を6名全員でセッション方式で競います。予選順位の逆順で順番にトライ、4課題をどの順番でトライしてもかまいません。3順目以降はパスも可能なので疲労具合を加味しながら戦略を立てることができます。

ほぼ全員が一番易しいと予想した(実際その通りでしたが)第1課題からトライする中、永木司選手のみが第4課題を選択し見事に1撃しました。その後も永木選手は第1課題を後回しにし、第2課題を選択して1撃、体力のあるうちに難しめの課題を登る作戦と見受けられました。第1課題は岡田哲昇選手がボーナスのみで1歩後退、出だしが遠い(設定はダブルダイノだが誰もせず)第2課題はリーチが厳しかった(設定者的にはダブルダイノならリーチ差が出にくいと思ったのですが、)牛込選手が大健闘するもののボーナス止まりで1歩後退、リーチ的に厳しいかと思われたもう一人の決勝女子選手の大瀧璃奈選手はフルリーチで耐え、しかもゴールに飛びついて1撃しました。第1課題を残した永木選手はパスで体力を温存して第1課題へ。疲労からか危ない場面もあったものの1撃して4課題中3課題を1撃、大瀧選手も第4課題を危なげなく1撃して追走。予選1位の鈴木選手は第4課題が2撃、亀野英孝選手は第2課題が2撃で後退しましたが勝負はまだまだ第3課題にかかっています。

しかし、疲労した体に決勝最難課題は酷だったのか、はたまたトフックを駆使して手順も分かりづらい設定ムーヴがトリッキー過ぎたのか全員ボーナスも取れずに終了。決勝は3完3撃の大瀧選手と永木選手が同着でしたが、予選成績の上位の大瀧選手の優勝となりました。



<エントリークラス優勝の大瀧璃奈選手>

シニアクラスは参加選手8名と少なめで、その為決勝人数も4名となりました。予選課題はミドルクラスと一緒にエントリークラスと被る課題が10課題、オープンクラスと被る課題が6課題の構成です。4級相当までを完登し、3級相当をいくつ登れるかが勝負で、13完登の山田邦彦選手に12完登の高島啓之選手が続き9完登11ボーナスの選手までの4選手が決勝進出です。

シニアクラスの決勝もエントリークラス同様の1階ウェイブ～バレル壁での4課題セッション方式で戦います。シニアクラスは決勝人数が4名と少ないため順番が早く回ってくるため、かなりの体力勝負となりパスを有効に使った方が良かったと思われましたが結局全員パスは使わずにデスマッチとなりました。ウェイブの第1課題、第2課題がオブザベもしやすく易いようなため全員そちらから攻めて、第1課題がボーナスのみだった和田孝宏選手が1歩後退します。2課題登れた3選手は次に出だしが悪そうで凹角にホールドの乏しい第3課題ではなくスローパー&ピンチの真っ向勝負の第4課題を選択します。しかし核心の左手ピンチが非常に悪くてなかなか右手のピンチに出て行けません。そうこうしているうちに鈴木宏佳選手がちょっとやってみるか的なノリで第3課題をトライ。出だしを難くこなしてあっという間にボーナスゲット。凹角でまさかのホールド見落として完登ならず。それを見た高島選手も第3課題にチェンジするものの疲労と焦りからかボーナスゲットできず。ラストトライの山田選手が見事に完登で決めて優勝となりました。良いタイミングで第3課題に替えた鈴木選手が予選から逆転で2位になりました。



<シニアクラス優勝の山田邦彦選手>

ミドルクラスは49名と一番多いクラスで決勝は狭き門となりました。予選課題はシニアクラスと一緒にエントリーと被る10課題、オープンと被る6課題の全16課題です。決勝進出のためにはエントリーと被る10課題での取りこぼしを無くし、かつオープンと被る課題をどれだけ登れるかというハイレベルな争いで全16完登の中尾光晴選手から12完登13ボーナスの相田圭希選手までが決勝進出。同じ12完登でも12ボーナスだった選手は予選落ちの僅差の勝負でした。ミドルクラスでは3級以上になると課題の得手不得手が出てくるため、得意パターンの課題を見つけ確実に完登するかが分かれ目だったように思います。

ミドルクラスからは決勝は2階の115度、The Arch、130度に1課題ずつの計3課題をオンサイトでトライします。115度の第1課題は甘いホールドから不安定にポケットに出す一手がボーナスで、このポケットを1撃で止める選手はいなく、予選2位の田中智規選手と予選6位の相田選手が2撃で1歩リードします。The Archの第2課題は決勝課題の中ではウェルカム的な課題でしたが160度の斜度がこたえたのか相田選手が完登ならずに1歩後退、3撃の田中選手も不利な状況になります。130度の第3課題はエネルギーの課題の独自性を培っている「鉄」作。さすがに疲労した肉体にはきつかったのかボーナスに到達する選手も出ずに終了。2完4撃の中尾選手が1位、2完5撃の田中選手が2位となりました。



<ミドルクラス優勝の中尾光晴選手>

マスタークラスも参加選手 33 名とミドルクラスに次ぐ人気のクラスで女子の有力選手がひしめています。予選課題はオープンクラスとかぶる 10 課題とエントリークラスとかぶる 6 課題で、ミドルクラスより 4 課題分難しい課題がある設定です。1 級課題も完登していかないと決勝に残れない厳しいクラスです。その中で 16 課題中 15 完登 15 ボーナスの三上智子選手から 12 完登 12 ボーナスの三神賢一選手までの 6 名が決勝進出です。このクラスはミドルクラスと違い、不得手な課題があると決勝に残れない総合力の要求されるクラスでした。

マスタークラス決勝も全 3 課題のオンサイト方式。115 度の第 1 課題は 115 度を回り込んだ 87 度壁がスタート。ダブルカンテをはさみながら上り、トゥフックで小さな悪いホールドをきかせて 115 度の方に入り込んでいくトリッキーな課題。力自慢の男子選手がリーチを生かして先のホールドを無理やり取りに行こうとしてもうまくいかず、ムーヴを読み切った予選 4 位の縄重未来選手と予選 1 位の三上選手が 1 撃。小さくて悪いホールドのマッチに成功した同じく予選 4 位の山口柊選手が 3 撃で続きます。ボーナスのみの江連洋行選手は 1 歩後退です。The Arch の第 2 課題は 160 度の傾斜の中で甘いピンチや小さなホールドを悪い足でこなすパワー課題。縄重選手が出だしで手順はまりしたものの 2 撃で完登、山口選手の力強い登りで 1 撃、最後に登場の三上選手も 1 撃でここまで 0 完登の矢野選手、江連選手、三神選手は優勝戦線からは脱落です。130 度の第 3 課題は手順の悩ましい下部からスローパーをパワフルにこなして最後はデッドの見栄えのする課題。ここまで 2 完の縄重選手はおしくもゴールが取れずにタイムアップ、山口選手が驚異のカチ力で 3 撃、しかし最後に登場の三上智子選手が 1 撃で優勝となりました。



<マスタークラス優勝の三上智子選手>

そして最後にオープンクラス。今年はマスタークラスを新設した事によって人数は若干少なめの15名、少数精鋭の戦いとなりました。予選課題はオープンクラスのみがチャレンジすることをゆるされた6課題にマスタークラスと共通の10課題の計16課題。さすがに上位陣は1級クラスまではあっさり完登、初段、二段での勝負となります。その中で、2人しか完登の出なかった課題を2本登った若尾龍隆選手が14完15ボーナスで1位通過、12完13ボーナスの高岡信之選手までが予選通過となりました。課題No.1の垂壁初段は杉卓洋選手のみ完登、No.5のこれまた垂壁前後の傾斜の初段課題は若尾選手と間島秀一選手のみが完登、No.8の130度二段は若尾選手と森田裕也選手のみが完登と難課題での強さを見せてくれました。

オープンクラスの決勝も1課題ずつ計3課題のオンサイト方式。115度の第1課題はスタート直後の左ハイステップからの遠い1手あたりに悪さのある課題で決勝1番手の高岡選手がタイムアップギリギリで4撃、他の選手は皆1撃で高岡選手が1歩後退。第2課題は出だしの豪快なダイノを決めて垂壁に入ったら極小極悪ホールドでゴール取りの二面性を持つ課題。全員ダイノからのボーナス取りは1撃するもののゴール取りに苦戦して若尾選手と森田選手のみが第1課題に続いて1撃、優勝争いに1歩リードし、2撃の杉選手と鈴木ランページ邦彦選手が続き、4撃の波田悠貴選手が不利な状況になります。130度の第3課題は大きめのホールドを横につないでいく課題でエナジー特製巨大ハリボテゴールのゴール取りが核心の課題です。高岡選手、鈴木選手とボーナス止まりでしたがここで波田選手が1撃で後続にプレッシャーをかけます。そしてここまで2完2撃の森田選手がゴール落ちを繰り返して完登ならずで波田選手の3位以上が確定。残りの2名杉選手と若尾選手は共に1撃で優勝は3完3撃の若尾選手となり、2位は3完4撃の杉選手、3位が3完6撃の波田選手となりました。



<オープンクラス優勝の若尾龍隆選手>

各クラスとも、予選・決勝共に選手の皆様には良いパフォーマンスを見せていただきました。中には力を出し切れなかった悔いの残る選手もいたかとは思いますがこれを糧に頑張るモチベーションの元となってもらえればと思います。また来年も色々なレベルの人が楽しめる、「また出たいな」と思われるような大会を目指して、また、ちょっと嫌がられるかもしれませんがエナジーらしいいやらしい課題を用意してお待ちしておりますのでよろしくお願い致します。

選手・観客の皆さまありがとうございました。スタッフの皆さまお疲れさまでした。

エナジークライミングジム 林



<オープンクラス入賞者>



<マスタークラス入賞者>



<ミドルクラス入賞者>



<シニアクラス入賞者>



<エントリークラス入賞者>